

製品名: HMG-14 (リン酸化 Ser21) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04783**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

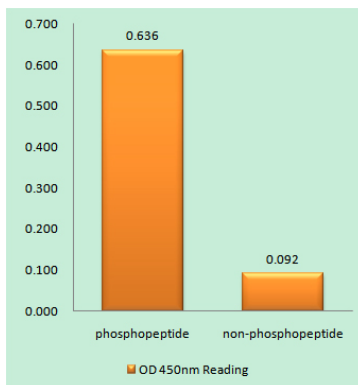
| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | HMGN1 |
| 別名 | HMGN1; HMG14; Non-histone chromosomal protein HMG-14; High mobility group nucleosome-binding domain-containing protein 1 |
| 遺伝子 ID | 3150.0 |
| SwissProt ID | P05114 |
| 免疫原 | 抗血清は、ヒト HMG14 の Ser21 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59 |

背景

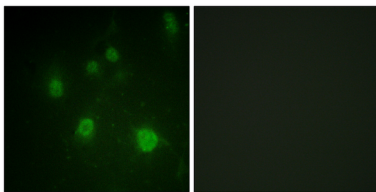
この遺伝子によってコードされるタンパク質はヌクレオソーム DNA に結合し、転写活性クロマチンと関連している。類似タンパク質 HMG17 とともに、このコードされるタンパク質は転写遺伝子周囲のオープンクロマチン構造の維持に関与している可能性がある。[RefSeq 提供、2011 年 8 月],機能: ヌクレオソーム DNA の内側に結合し、DNA とヒストンオクタマーとの相互作用を変化させる。転写遺伝子を固有のクロマチン構造に維持するプロセスに関与している可能性がある。RPS6KA5/MSK1 および RPS6KA3/RSK2 によるヌクレオソームヒストン H3 および H2A のリン酸化を阻害する。、質量分析: PubMed: 10739259,PTM: Ser-21 および Ser-25 のリン酸化はヌクレオソームへの結合を弱め、H3 のリン酸化速度を増加させる (類似性による)。リン酸化は細胞質への局在を促進する。、RNA 編集: 部分的に編集される。5'-UTR に単一のウリジンが挿入されることで、新たな開始メチオニンが生成され、N 末端が 45 アミノ酸長くなる。RNA 編集バージョンの存在は、そのバージョンに特異的な以下のペプチド (23~31 番および 40~48 番) の MS/MS による直接タンパク質配列決定によって裏付けられている。RNA 編集バージョンは ET-HMGN1 と呼ばれる。、類似性: HMGN ファミリーに属する。、細胞内局在: リン酸化により細胞質に濃縮される。RNA 編集バージョンは核に局在する。、

研究分野

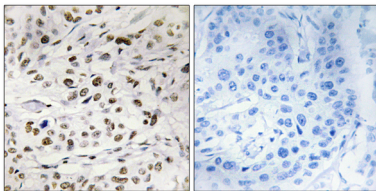
画像データ



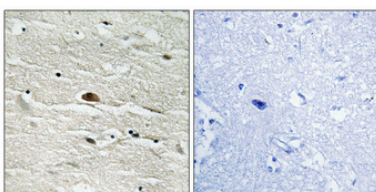
HMG14 (リン酸化 Ser21) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



HMG14 (リン酸化 Ser21) 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



HMG14 (リン酸化 Ser21) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。

